



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



四旬節第2主日 A年(2026年3月1日)

洗礼志願者といっしょに四旬節を過ごしましょう

主任司祭 小西広志神父

四旬節第二主日はいつも「主の^{へんよう}変容」の場面が読まれます。洗礼志願者のための特別な典礼はありません。

「イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽の^{かがや}ように輝き、服は光のように白くなった」(マタ 17 章 2 節)と記されています。イエスさまのお姿が^{すがた}変わったように、洗礼志願者もまた、洗礼の^{ひせき}秘跡を通じて自分の姿が変わっていきます。「変容」なされたイエスさまのお姿は、わたしたちの未来の姿を^{よけん}予見させるものです。

なぜなら、今日の福音で^{あき}明らかなように、イエスさまは「わたしの愛する子、わたしの心に^{かな}適う者」(17 章 5 節)であって、わたしたちも洗礼によって神さまから「愛された子」にさせていただくからです。

前にもお話したかもしれませんが、「わたしの愛する子、わたしの心に適う者」の「心に適う者」とは、天の^{おんちち}御父とイエスさまのおこころが^{いっち}ピッタリと一致しているということです。おそらく『イザヤ書』42 章 1 節が背景にあるのでしょうか。ギリシア語を直訳してみると「わたしは^{まんぞく}彼に満足した」あるいは「わたしは^{よろこ}彼を喜んだ」となります。ですから、「心に適う者」を「わたしの^{りかい}喜び」と理解することもできるでしょう。

天の御父とイエスさまのおこころがピッタリ一致しているからこそ、天の御父にとって、イエスさまは「喜び」そのものなのです。

わたしたちも洗礼を受けて、神さまから愛された「神の子」とさせていただけます。と同時に神さまから^{らん}ご覧になって、わたしたち一人ひとりが「神さまの喜び」となるのです。

自分自身の弱さと^{みじ}惨めさにつねに直面して生きているわたしたちにとって、自分が「神さま

の喜び」、「神さまにとっての喜び」であるという事実はにわかには受け入れがたいです。

しかし、神さまは、わたしたちがどんなふうになろうとも、「喜び」をあきらめることはないのです。

「愛された子」として生きる、「神さまにとっての喜び」として生きる。これが洗礼を受けた人の始める新しい人生の歩みなのです。

しかし、^{ざんねん}残念ながらこの事実を^{わす}忘れがちです。「愛されている子」という^{めぐ}恵みを忘れて、^{ひと}一人ぼっちに^{おちい}陥ったりします。「あなたはわたしの喜び」に気づかずに喜びのない、^か砂を^か噛むような毎日を^す過ごしたりもします。

人間というのは実に弱く、惨めな存在です。だからこそ、わたしたちが「神の子である」ことを取り戻すために、わたしたちが「喜び」であることにもう一度気づくために、イエスさまは喜んで十字架にかけられたのです。

十字架は^{きゆうきよく}愛の究極の姿なのです。

「あなたはわたしの愛する子」という天の御父のみことばを^{とど}こころに留めていきましょう。

